

谷垣財務大臣閣議後記者会見の概要（抜粋）

平成15年11月14日(金)

【冒頭発言】

今朝の閣議ですけれども、一般案件の一つ目は、ベトナムとの投資の自由化、促進及び保護に関する協定の署名等について、まず決定をいたしました。あと、モンゴルの大統領の公式実務訪問賓客待遇、あとは大使の信任、解任に伴う認証を仰ぐことですね。それから国会提出案件が3件、議員の質問書に対する答弁書でございますが、当省に関連するものは特にありません。それから人事は、叙位叙勲等の決定がございました。それから閣僚の発言は、川口外務大臣から、ASEAN諸国訪問についてのご報告がありました。それから閣僚懇では、一つはバイオマスの食器を使い始めたという農林水産大臣のご発言と、あとは竹中大臣から、7-9月期のQEの速報値が発表があったと。2.2%、年率換算するとですね。7四半期連続伸びているという趣旨のご発言があったところであります。

私からは以上でございます。

【質疑応答】

問)三位一体の関係の税源移譲なんですけど、これも年末にかけて詰めていく問題ですけれども、今現在、大臣、税源移譲についてはどういうスタンスでお考えでしょうか。

答)これは私は、今までいろんな方針で決まっているのと別段特異の見解を持っているわけじゃありませんで、やっぱり基幹税を中心に考えていくということですけども、要するにちょこちょこ、ちまちまというような言い方を、片山さんはどこかの答弁でされてたと思いますけれども、基幹税の小さな制度を何度もいじるといのは、やっぱりいろんな意味で混乱もあると思いますから、ある程度まとめたところでやるというのが一番妥当なやり方じゃないかなと、私も思っているわけです。だから、それまではつなぎに何かを考えていくということなのかなと思いますけれども、基本的にそういうことじゃないかと思えますね。

問)そうしますと、税源移譲というのは、例えば補助金の削減とか、骨太の方針で3年間で4兆円規模というふうに言われているんですけども、やはり3年目とか、そういったある程度のロットが出てきた段階でやるものであるというふうに理解すればよろしいのでしょうか。

答)3年というのが妥当なのかどうかは分かりませんが、ある程度まとまらないと、何年かとはちょっと言いにくいですけども、今、ロットという言葉をおっしゃったけど、ある程度まとまらないとやりにくいということはあるでしょうね。

問)三位一体の件なんですけど、ということは、今年はあと時間も少ないわけですし、税源移譲まではなかなか議論がいかないということになる...

答)いや、そこはまだちょっと、何というか...固定的な結論を持っているわけではありませんけれども、なかなかちまちまとやるわけにはいかんという、片山さんがかつて述べられたのはそのとおりだということですね。